

平成 27 年 4 月 15 日  
グラントマト株式会社  
代表取締役 南條浩

### コメ市場の必要性について

○ 農業経営にとって、米の生産が経営として成り立つ価格形成や実需側との信頼関係を築く事は、長期的な事業発展の為にも非常に重要。公正・透明な価格形成のニーズは、生産と消費両面の相互理解を深めながら今後高まっていくと考えられる。

○ コメの先渡し市場において、生産者と実需者とが直接つながることで、生産者と実需者の相互理解から、明確な方向性や大きな価値が形成されることが考えられる。

現在の価格形成だと、実需者の仕入れ価格の変動不安からただ安値を追うばかりで、将来につながるような価値は生み出せていない。現在の実需者ニーズを満たす価格は、米の再生産が可能になる価格ではないと思われる。

先渡し市場運用の過程で需給バランスがとれ、徐々に稲作経営が成り立つ価格に発展していくと期待される。

○ このため、実需者と生産者が直接つながることのできる先渡し市場は重要。このようなコメ市場の活性化には、コメ市場の電子取引などのインフラ支援や、商談会への農林水産省による後援など政府の後押しが必要。

## 【参考】米の付加価値向上に向けた取組

- 福島県が音頭をとり2012年から収穫したすべての福島県産米を30KGの袋の状態放射線量（100Bq/kg未満が安全基準）の検査を行っている。  
また、当社においては、2011年から、約6000tの米を県の放射線検査とは別に5Bq/kg未満を安全とした自主基準を設定して線量検査を行っている。
- このような経験から、放射線だけでなく、インターネットやIT技術を使用し栽培履歴の公開や、残留農薬や重金属検査など、米の価値を高める手法は多々あると考える。
- 減反政策による生産量のコントロールという内向きな政策から、高品質な米を栽培しアジアの富裕層に積極的に販売する事が、強い生産者を育てながら国内の適正価格と需給コントロールにつながっていくと考えられる。
- 日本の米は現在でも世界一のコストパフォーマンスを有していると考ええる。それをさらにダントツの優位性を保つには、品質に加え健康と環境に対する価値を、ジャパングォリティーとして強力にアピールすることが重要だと考える。
- このため、産地集荷卸業者（単協も含む）のガバナンスを徹底させ、全体利益を逸しないような組織化と付加価値向上の実働部隊として組織化していくことが同時に必要となってくる。